

中泊町に新たな 学びの拠点が完成

明の星短大がサテライトキャンパス開設
中泊町と連携協定を結んでいる明の星短期大学(学長・石田一成)が、新たな学びの拠点を津軽中里駅内に開設しました。

6月4日(火)に駅ナカにぎわい空間で行われたオープンセレモニーには、石田学長をはじめ、約60人の関係者が出席しました。セレモニーで石田学長は、同短大の英語出前講座や、小学校教員向けのセミナーを取り上げながら「先生や子どもたちはもちろん、町民も学ぶことができる生涯学習の場を提供したい」と話しました。濱館町長は祝辞で感謝の言葉を述べながら「キャンパスを活用した子どもたちが世界に羽ばたいていけるようになって欲しい」と述べました。

このサテライトキャンパスには、月に4回程度、同短大担当職員が派遣されます。今後は、外国語授業や料理教室など、同短大の得意分野を活かした各教室などの展開が予定されています。



テープカットの様子



キャンパス外観

子どもたちが釣り体験

漁業を学ぶ体験学習

子どもたちに漁業を身近に感じてもらうと、「さかなと海」ふれあい体験学習が今年から始まりました。6月21日(金)に、第1回目の体験学習が開かれ、中里小学校5年生19人、小泊小学校5年生17人の計36人が参加しました。開催にあたって濱館町長は「楽しみながら漁師の仕事を学び、将来はぜひ漁師を目指してください」とエールを送りました。

早速、一行は2人1組に分かれて釣りを体験しました。初めて釣りをした人が多い中、小泊漁協や日本釣振興協会青森支部、そふえ釣具(青森市)、イクタ釣具(つがる市)、モトオ釣具(平内町)のスタッフたちが教えながら、釣果をサイズで競いました。荷さばき施設に場所を移し、小泊漁港へ荷揚げされる魚や仕事内容の説明がありました。このとき、ちょうどメバルの一本釣り漁船が入港し、荷さばきを見学することもできました。最後に、小泊地域で獲れる魚・生態の説明のあと、お待ちかねの海鮮料理の試食をしました。小泊地域ではお馴染みのサザエカレーに児童たちは舌鼓を打って、何度もおかわりをする様子も見られました。中里小の鈴木考樹くんは「初めて釣りを体験して、なかなか釣れなかったけれど楽しかった。テレビで見るように簡単にいなくて、漁師は大変だと思った」と、体験学習をとおして漁業の楽しさや難しさを実感できたようでした。

体験学習は7月3日(水)にも実施され、武田小学校6年生、薄市小学校2年生、小泊小学校3年生、小泊中学校2年生が参加しました。この事業は、7ヶ年計画で進められ、学年毎に異なる内容で複数回にわたる体験学習が展開され、町内全校で行われます。



記念すべき最初のヒットは2匹同時



荷さばき施設見学



サザエカレーを堪能

発明の可能性をふくらませて！

令和元年度開講式・5月講座

小 泊少年少女発明クラブが5月19日(日)小泊漁火センターで開講式・5月講座を開催しクラブ員6人が参加しました。開講式で相澤会長が「ここでしかできないことを体験してほしい。楽しみながらたくさんのことを学んでください」とあいさつし、クラブ員らは今年度の抱負を語りました。その後の講座では、バルーンアートに挑戦しました。おっかなびっくりふくらませた風船を曲げたりねじったりしながら剣や帽子、白鳥などを作りました。最後に風船ロケットで誰が一番遠くまで飛ばせるかを競ったり、誰が一番早的に当てられるかを競ったりしました。小泊少年少女発明クラブでは、指導員を募集しています。年齢、出身地域、専門知識は問いませんので、希望者は事務局・佐藤(090-6780-9148)までご連絡ください。



早く大きくなってね

中里こども園でサツマイモ植え付け体験

中 里こども園の園児たちが5月27日(月)に、若手農業者の会「ばろかだる会」の会員らと一緒にサツマイモの苗を植える体験をしました。品種や植え方の説明のあと、園児たちは丁寧に植え付けて「おおきくなーれ、おいしくなーれ」と願いを込めました。園児たちは「収穫して早く食べたい」、「ふかし芋や天ぷらで食べたい」と秋の収穫を楽しみにしていました。



元気いっぱい！泥にまみれて苗を植える

武田小5年生が田植え体験

武 田小学校5年生が、5月28日(火)に長利謙二さんの田んぼで田植え体験をしました。苗が成長する様子の説明を受けてから、児童たちはおそろおそろ田んぼに素足で踏み入り、苗植えを体験しました。柔らかく、少しひんやりとした泥の感触におどろきの声を上げながらも、集中してあっという間に稲を植えきりました。工藤美咲さんは「初めて体験した。歩きにくかったが、同じ間隔でまっすぐ植えることができた」と出来映えに満足していたようでした。



中泊の魅力がたくさん！

中泊大集合市がはじまる

津 軽中里駅構内の駅ナカにぎわい空間で、中泊町の魅力発信や、津軽中里駅から奥津軽いまべつ駅を結ぶ路線バス「あらま号」利用促進を図る「中泊大集合市」の第1回目が6月1日(日)に行われました。会場では地場産の鮮魚類や新鮮野菜の販売などが行われました。このイベントは、津軽半島観光アテンダント主催で毎月第1土曜日に、金多豆蔵の公演と合わせて開催されます。また、このイベントの日は津軽鉄道1日フリーパスが大人1,000円、小人500円で購入できます。



目指すは全国制覇！

小林叶和君が全国大会出場報告

全日本卓球選手権大会青森県予選(ホープス・カブ・バンビの部)で第5位に入賞した小林叶和君(武田小2年)が6月3日(月)に濱館町長を訪れ、全日本卓球選手権大会出場の報告をしました。濱館町長が「頑張ってもっと強くなって、一緒に卓球の試合をしよう」と言うと、叶和君は大きく頷きました。「目指すはイチバン。得意のサーブで頑張る」と意気込みも話しました。

全日本卓球選手権大会は、7月26日(金)から28日(日)に神戸総合運動公園内体育館「グリーンアリーナ神戸」(兵庫県神戸市)で開催されます。



有志集い、奥津軽を語ろう

「公開講座 奥津軽」が意見交換会

地域の有志の人たちが集まって、津軽半島の現状や課題などを話し合う「公開講座 奥津軽」(代表・角田周)が6月8日(土)、総合文化センターパルナスで「住民ティーチャー学会」と題した講座を開催しました。

この講座では、「若者と過疎」をテーマに、地域の活性化に取り組む若者を講師に、研究成果の発表が行われました。また、濱館町長も飛び入り参加し、交流人口増加への糸口をメンバーらと一緒に探りました。

町政を学び、意見を述べる

連合婦人会が濱館町長と意見交換会

連合婦人会の会員ら約40人が6月13日(木)に役場委員会議室へ集まり、濱館町長と意見交換をしました。前半は、濱館町長から、町の現状と施策のプレゼンがありました。後半は、各婦人会からの要望や質問に、濱館町長が一問一答形式で答えました。

意見交換会を機会に、町が置かれている状況や施策を知り、町の将来像を考えるきっかけになったのではないのでしょうか。



おおきな〜れ!おいしくな〜れ!

薄市こども園 宇宙毛豆の種植え体験

宇宙毛豆の種まき体験が今年も行われました。6月14日(金)、野上健さんの大豆畑に薄市こども園の園児13人と五所川原農林高等学校生6人が集まりました。

園児らは高校生に手伝ってもらいながら、7センチほどの穴に種を植えて、やさしく土をかけました。高橋徠斗君は「おもしろかった。宇宙毛豆が大きくなったら、100個食べたい」と試食が待ち切れない様子でした。

収穫期の秋には、枝から豆を外す脱ぎょう作業の体験が予定されています。

密な連携で事故対応力向上へ

船舶同士の事故を想定した訓練実施

小 泊漁港から約3km地点の海上で、船舶同士衝突事故を想定した、海難救助訓練が6月14日(金)に小泊漁港で行われました。訓練は、海上で衝突したとの無線連絡を小泊漁業協同組合が受けたところから始まり、現地対策本部設置、火災消火と曳航救助、潜水による救出など、多岐にわたる内容の訓練を行いました。また、小泊漁協婦人部からは、「救命胴衣着用推進宣言」が行われました。



薄市小学校 放課後教室

伝統を見童たちが受け継ぐ

薄市小学校の放課後教室で“太刀振り”

地 域の伝統行事の“太刀振り”体験が、6月17日(月)に薄市小学校の放課後教室で行われました。“太刀振り”の跳人練習のほか、太刀などの装飾製作体験が行われました。

この太刀振りは、昨年に復活を遂げ、今泉賽の河原例大祭運営委員会の協力のもと、児童たちによって地域の伝統継承がなされています。練習した太刀振りは6月23日(日)に行われた今泉賽の河原例大祭で披露されました。

また、6月9日(日)に若宮地区では、農作物の害虫を追い出すために五穀豊穰を祈って虫送りが行われました。



若宮地区の虫おくり

誇りある地域をよりよくするために

集落支援員が懇談会開催

下 前・折戸の2地区を対象に配置された集落支援員の2人が、6月18日(火)にすくすくしたまえ館で下前地区住民を対象とした懇談会を開きました。昨年度から活動している集落支援員は、昨年行ったアンケートの結果をもとに、下前地区の現状や要望を振り返りました。また、中里地域で実証実験中の「ピュア宅配・見守り号」移動販売車も訪れていました。荒関礼子さんは、「とても便利で助かる。見応えあるいい品物がたくさん揃っていて、選ぶ楽しみもある」と話し、今後の継続に期待を込めていました。



地域みんなが一緒にのひととき

中里高校が44回目の体育祭

44 回目となる体育祭が6月21日(金)に中里高校で行われました。今年は、地域住民との交流を目的に、薄市こども園と内潟療護園に参加を呼びかけ、一緒に声援を送ったり汗を流したりしました。

じゃんけんで負けた人が、勝った人の後ろにつく「じゃんけん列車」競技では、全員が参加して、大いに盛り上がっていました。また、薄市こども園のお遊戯では大きな拍手や歓声が響き渡っていました。

